

(1)所管事業の評価

総合評価の割合	 期待を上回る 0.0%	 概ね順調 100.0%	 限定的効果 0.0%	 成果不十分 0.0%
---------	--	--	---	---

(2)所管事業のコスト(単位:千円)

	R4決算	R5決算	R6決算	R7決算	R8見込	R4～R7 合計	事業費に占める 一般財源の比率
事業費 総額	86,439	159,698	189,111	170,191	170,191	605,439	61.9%
市の実質負担額 総額	79,717	89,360	96,871	109,094	111,980	375,042	

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	03080	事業名	文化財看板の整備		事業コード	39600	担当課	生涯学習課
事業概要	文化財周知のために、文化財の場所やその近くに看板を設置するもので、旭市を訪ねる方にこの地域の歴史と文化に親しんでもらうことを目的とする。既に設置されているもので老朽化したものを改修するほか、新規の設置も行う。また、看板を設置し、地域の方々にも身近にある文化財を意識してもらうことで、文化財保護や郷土を誇りに思う気持ちをはぐくむ。							
経緯等	昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。 市指定文化財について、修復費等の補助・説明看板の設置修繕等を実施。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	老朽化看板の計画的更新および、デジタル技術を活用した案内機能の拡充。		更新した看板数、修繕した支柱数。			文化財が「見える化」されることで、住民が自身の住む地域の歴史的価値を再認識し、文化財保護意識の向上と次世代への継承が図られる。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	看板設置件数	3	3	2	1	2	2
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	QRコード設置率(済/看板件数81か所)	—	16	49	83	96	100
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		110	119	110	55	61	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		110	119	110	55	61	
課題等	・経年劣化や紫外線に強い仕様のものを選定する必要がある。 ・所有者との調整、文化財の現状確認を含めた看板の点検、管理が求められている。							
令和8年度方針	劣化のすすんでいる看板を優先的に修繕するとともに、非公開文化財等へQRコード付き看板を設置し、文化財の内容、価値やその魅力を広く周知する。							

				重点P	2	総合評価	概ね順調	
No.	06180	事業名	家庭教育の充実	事業コード	39720	担当課	生涯学習課	
事業概要	各学校での家庭教育学級や合同での学習会・講演会を通して、親の役割、こどもの心の理解等、家庭での教育について考えを深め、また、保護者同士が互いに支え合える関係づくりを目的とする。							
経緯等	家庭が本来果たすべき役割を見つめなおす機会となるよう、保護者自身が親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育について、家庭教育学級合同学習会を年2回、家庭教育学級を年3回開催している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	家庭教育学級合同学習会 年2回 家庭教育学級 年2回～3回		・家庭教育学級合同学習会では、家庭教育に関するテーマで講師に講演をしてもらう。 ・家庭教育学級では、保護者と家庭教育主事が連携を取り、企画運営を行う。			子どもとの関わりを学んだり、安心感を得ることで、保護者の気持ちが安定し、子どもの気持ちの安定につながる。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	合同学習会開催数	2	2	2	2	1	1
	活動指標イ	家庭教育学級数	20	20	20	20	20	20
	成果指標ア	合同学習会参加数	261	364	221	231	100	100
	成果指標イ	家庭教育学級参加数	1,607	1,780	1,786	1,756	1,628	1,628
費用 (千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		1,759	1,889	1,777	1,712	1,592	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		1,759	1,889	1,777	1,712	1,592	
課題等	・保護者(学級生)の関心の向く合同学習会の講演の選定、周知、募集方法の一層の工夫が必要と思われる。 ・より家庭教育学級の主旨にそった学習計画を立てたり内容の充実を図ったりすることができるようにすること。							
令和8年度方針	・小中学校1年生の保護者を対象に、親の役割、子どもの心の理解について考えを深めていく学習の場としての家庭教育学級を3回程度開催する。 ・市内小・中学校20校の家庭教育学級合同学習会として子育てに関する講演を1回行う。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	06190	事業名	家庭教育相談体制の充実		事業コード	39720	担当課	生涯学習課
事業概要	家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者に対して、電話等による個別的な相談体制の充実を目的とする。							
経緯等	家庭教育指導員を中心に、家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者に対して、電話等の窓口を開設している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	家庭教育相談窓口の開設		家庭教育指導員による相談窓口での対応			家庭教育に関する悩みや不安を解消する。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	家庭教育相談の利用回数	3	0	2	0	2	2
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合	100	0	100	0	100	100
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		0	0	0	0	0	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		0	0	0	0	0	
課題等	家庭教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別相談に対応できる体制は整えてあるが、相談件数が少ない。							
令和8年方針	こども家庭課や教育総務課と連携を図り、子どもに関する相談窓口の連携を図る。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08010	事業名	生涯学習施設活動の支援	事業コード	40200、41200、41400、41900	担当課	生涯学習課	
事業概要	学びたいときに学べる機会と、人づくり・まちづくりにつながる場を提供します。							
経緯等	市民のニーズに応え学習を支援するため、市主催の講座を開催し、また、サークル活動のため施設を貸し出し学ぶ機会を提供している。海上公民館友の会と連携し、海上公民館の利用団体の発表の場として年1回公民館まつりを開催している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・市民が自主的に行う学習グループに対し、施設利用料の減免や、活動の成果発表の場（地域イベント等）を優先的に提供する。		自主グループの登録・活動数			市民の主体性の向上と「学びの循環」の定着		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	利用回数	2,314	2,195	2,107	2,070	2,100	2,200
	活動指標イ	講座等開設数	83	91	98	94	101	102
	成果指標ア	参加人数（延べ人数）	25020	25822	24060	23391	24000	25000
	成果指標イ	講座受講者数（実人数）	1714	1763	1926	1896	1960	2000
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		6,625	6,535	6,510	6,154	7,335	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		6,625	6,535	6,510	6,154	7,335	
課題等	・趣味や教養中心の講座が多いため、現在の学習ニーズに合わせた講座の提供が不足していると思われる。 ・若年層の利用が少なく、限られた地域住民の交流の場として利用されている傾向がある。							
令和8年針年度	・若年層が魅力を感じるような、市民のニーズに合わせた講座を検討していく。 ・誰もが気軽に利用できるよう公民館だよりなどの広報誌で、講座やサークルなどの情報を発信していく。 ・引き続き海上公民館友の会と連携を図りながら、公民館まつりを開催する。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08020	事業名	生涯学習講座の開催			事業コード	40200、41200、41400、41900	担当課	生涯学習課
事業概要	充実した生活や教養を高めるため、各施設（海上公民館、いいおかユートピアセンター、干潟公民館、旭市民会館）で市民ニーズに沿った講座を開催する。								
経緯等	社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に事業開始。主に市主催の定期講座を開催している。								
ロジックモデル	活動・実施内容			産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・ 受講生にアンケートを実施しニーズ調査を実施する。 ・ 忙しい市民でも参加しやすい「短期集中型講座」を導入する。			・ 年間開催講座数 ・ 受講者数			・ 講座受講を通じて、市民の知識やスキルが向上し、自分自身で生活を豊かにするための「学びの選択肢」が広がる。		
指標				R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	講座等開設数		83	91	98	94	101	100
	活動指標イ	新規講座開設数		15	18	15	12	14	16
	成果指標ア	講座受講者数（実人数）		1,714	1,763	1,926	1,896	1,960	2,000
	成果指標イ	新規講座受講者数（実人数）		303	308	328	316	300	310
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額			6,625	6,535	6,510	6,154	7,335	
	その他(補助金・地方債等)			0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)			6,625	6,535	6,510	6,154	7,335	
課題等	・ 講座受講者から、マンネリ化している講座の見直しをして欲しいとの意見あり。 ・ 同じ講座に何年も通っている生徒がいる。								
令和8年度	・ 受講生に新規の講座で何か受講したい講座があるかアンケートを取る。 ・ 受講生の少ない講座については、講師と相談の上廃止にし、新規講座を開始する。 ・ 何年も同じ講座を受講している生徒については、サークル活動に移るように促す。								

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08030	事業名	生涯学習リーダーバンクの充実		事業コード	41200	担当課	生涯学習課
事業概要	生涯学習講座の受講者の中から講師の養成・発掘に努め、リーダーバンクの充実を図る。							
経緯等	社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に公民館事業開始。市民の自主的な活動を促進するため、市主催の生涯学習講座により講師となる人物を養成、発掘。生涯学習リーダーバンクに登録してもらい、旭市生涯学習ガイドに掲載している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	広報媒体（広報誌、WEBサイト等）の活用		・新規登録者数の増加 ・講座提供の機会数			・地域における生涯学習の質の向上・多様化 ・持続可能な生涯学習体制の構築		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	講座等開設数	83	91	98	94	101	100
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	生涯学習リーダーバンクの登録者数	81	82	78	78	80	85
	成果指標イ	生涯学習リーダーバンクの新規登録者数	4	1	7	8	5	5
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		142	134	135	142	148	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		142	134	135	142	148	
課題等	リーダーバンクの登録者は、高齢の講師が多いため、新規の講師の発掘・育成が課題となっている。							
令和8年度方針	公民館だよりやSNSを活用し、新規登録者の増加を図る。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08040	事業名	各施設の整備充実		事業コード	40100、41100、41200、41300、41800、41900	担当課	生涯学習課
事業概要	各施設（海上公民館、いいおかユートピアセンター、干潟公民館、旭市民会館）での安全・安心な学習環境を提供する。							
経緯等	各施設は合併前からあり、干潟公民館や旭市民会館は改修工事を実施している。しかし残りの2施設については老朽化しているため修繕が必要な個所が年々発生しているため、その都度修繕している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・施設状況の定期的点検 ・緊急・計画的修繕の実施と予算の確保		・点検実施率			・学習環境の安全性向上と事故の未然防止		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	各施設における定期点検実施率（％）	100	100	100	100	100	100
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	施設利用者数	99,289	107,629	104,711	104,551	105,000	105,000
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		3,598	5,758	14,931	22,305	12,940	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		3,598	5,758	14,931	22,305	12,940	
課題等	修繕が必要な場所が年々発生し、安全・安心な学習環境を提供するのに不便が生じている。							
令和8年度方針	今年度実施予定の改修工事を完了させる。また、予算の時期までに改修が必要と思われる個所を洗い出し次年度予算に計上し、財政課と協議する。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08050	事業名	図書の充実		事業コード	40500	担当課	生涯学習課
事業概要	図書等の資料や情報を収集し、市民に提供する。							
経緯等	昭和38年の旭市図書館開館以来、図書館法の趣旨に基づき、資料や情報の収集及び市民への提供を継続している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	資料の選書、購入、寄贈受け入れ 資料の装備、システム登録 開架書庫へ配架、閲覧、貸出 資料の除籍、処分		蔵書増加冊数（購入＋寄贈） 蔵書除籍冊数			貸出人数の増加 貸出冊数の増加		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	蔵書増加冊数	4,168	4,343	3,686	3,554	3,335	3,500
	活動指標イ	蔵書除籍冊数	959	1,693	322	930	1,500	1,500
	成果指標ア	貸出人数	34,179	35,986	37,864	37,850	38,000	38,000
	成果指標イ	貸出冊数	101,214	103,836	110,144	109,727	115,000	115,000
費用 (千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		8,290	9,283	8,146	8,118	8,510	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		8,290	9,283	8,146	8,118	8,510	
課題等	旭市図書館は、児童向け図書（絵本・児童実用書）を重視して収集してきた経緯があり、蔵書に占める児童向け図書の比率が高い。今後、少子高齢化が加速すると予想されることから、将来の年齢別人口に対応した、選書方針の検討が課題となっている。							
令和8年度方針	市の年齢別人口及び図書館の年齢別利用状況を分析し、様々な世代に対応できる選書方針の検討を進める。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	08060	事業名	市図書館と図書施設のネットワークの活用	事業コード	40500	担当課	生涯学習課	
事業概要	インターネットによる蔵書検索・予約・受取場所の指定が可能な環境を整備し、利用者の需要に柔軟に対応可能な貸出サービスを提供する。							
経緯等	図書館情報システムを整備し、利用者の需要に柔軟に対応可能な環境を構築し、旭市図書館と3図書室の連携体制の整備を進めている。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	インターネットによる蔵書検索・予約・受取案内パンフレットの作成及び周知		インターネット予約件数の増加 3図書室貸出冊数の増加			予約件数内のインターネット予約率の増加 貸出冊数内の3図書室貸出比率の増加		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	インターネット予約件数	3,361	3,680	3,932	3,745	3,850	4,150
	活動指標イ	3図書室貸出冊数	4,628	3,516	3,575	3,128	3,757	3,757
	成果指標ア	予約件数内のインターネット予約率	56.0%	52.0%	51.0%	53.0%	55.0%	57.0%
	成果指標イ	貸出冊数内の3図書室貸出比率	4.6%	3.4%	3.2%	2.9%	3.3%	3.3%
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		6,511	6,516	6,516	8,461	11,002	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		6,511	6,516	6,516	8,461	11,002	
課題等	現状、予約件数内のインターネット予約率は、50%を若干上回る程度で推移しており、予約件数の増加が課題。貸出冊数内の3図書室貸出比率は年々低下しており、貸出冊数の増加が課題である。							
令和8年度方針	インターネットによる蔵書検索・予約・受取方法をを分かりやすく案内したパンフレットを作成して周知し、インターネット予約件数及び3図書室貸出冊数の増加を図る。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09010	事業名	文化施設の利用助成事業			事業コード	39900	担当課	生涯学習課
事業概要	文化施設の利用助成事業とは、幅広いニーズに対応し、自主的な文化芸術活動が活発になるよう、市内で活動する歌謡・舞踊などの団体に対し、東総文化会館を使用する際に文化施設使用料を助成する。 使用料助成 歌謡、舞踊、カラオケ→施設使用料の1／3を助成している。（上限、回数制限〔年度1回限り〕有）								
経緯等	合併前の旭市文化振興基金、海上町文化振興基金に属していた現金、有価証券その他の財産により、新市文化振興基金を設置したことにより始まった。								
ロジックモデル	活動・実施内容			産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	市民の文化団体による文化会館利用に対する利用料金の一部助成。			・年間を通じて助成金を交付した件数。 ・助成を受けた事業に参加した人数。			文化活動が活性化することで、市民同士のネットワークが形成され、文化を通じた地域コミュニティの機能が強化される。		
指標				R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	使用料助成件数		7	8	7	7	8	8
	活動指標イ			0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	助成によって参加できた団体の発表者数		315	319	373	348	500	500
	成果指標イ			0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額			326	344	274	316	400	
	その他(補助金・地方債等)			0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)			326	344	274	316	400	
課題等	助成を受けた団体から「助成が年1回になったので、開催回数を年1回に減らした」といった意見があるほど、文化会館を利用する団体にとって、この助成金のメリットは大きい。								
令和8年方針	助成制度の安定的な提供により、文化活動の実施コストが抑制され、団体が「活動継続」または「発表の場」を維持でき、また文化会館の稼働率が確保される。継続して助成を行っていく。								

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09020	事業名	文化振興事業		事業コード	39900	担当課	生涯学習課
事業概要	文化振興事業（文化協会運営補助金及び文化祭開催補助金を除く）とは、千葉県東総文化会館にて市主催のコンサート・寄席・あさひのまつりなどを企画し、市民が参加できる文化事業を実施する。							
経緯等	合併前の旭市文化振興基金、海上町文化振興基金に属していた現金、有価証券その他の財産により、新市文化振興基金を設置したことにより始まった。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	千葉県文化振興財団との連携による、市外からの高品質な舞台芸術公演の共催。		・公演の実施数 ・来場者数および延べ観客数。			多様で質の高い芸術文化に触れる環境が整うことで、市民の文化に対する「感性・教養」が豊かになる。		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	市主催事業開催回数(文化祭除く)	3	6	4	6	5	5
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	市主催事業(文化祭除く)観覧者数	2,166	4,076	2,813	3,766	3,360	3,360
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		6,888	14,926	7,987	9,678	13,053	
	その他(補助金・地方債等)		3,246	9,172	3,107	5,600	6,787	
	歳出額(総額)		10,134	24,098	11,094	15,278	19,840	
課題等	文化振興基金は毎年ほぼ5,000千円以上の額を取り崩し、H28年度末をもって廃止し一般会計に移行した。							
令和8年度方針	毎年実施している事業を継続する。また、R8年度は採択されなかったが、好評を得ているNHK公開番組と宝くじ助成事業は、引き続き実施申請を行う。今後は千葉県文化振興財団が誘致する公演に共催する形で、市だけではできない舞台鑑賞の機会を作っていく。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09030	事業名	市民文化活動の支援		事業コード	39900	担当課	生涯学習課
事業概要	・旭市文化協会（91団体・1,179名）への運営に対する補助631千円や、文化祭開催費用1,850千円の補助を行う。 ・（公社）日本七宝作家協会展・濤川惣助賞への木杯提供など、文化振興関係の事務を行う。							
経緯等	旭市文化協会は芸能部、美術部、茶華道部、文芸部等、部門別に活動しているほか、文化祭は各地域別に開催していた。（令和元年度から集約開催） 加盟団体は自主的に文化活動を行っており、活動の支援や指導者の育成等、市民の文化活動の活性化を図るために始まった。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	補助金の適正な執行管理と、文化協会主体の運営体制の構築支援。		文化祭への延べ来場者数、および出展・出演した市民団体数。			市民が多様な文化芸術に触れる機会が維持・創出されることで、文化芸術への関心が高まり、地域コミュニティにおける交流が促進される。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	文化協会加入者数	1,382	1,360	1,223	1,179	1,179	1,200
	活動指標イ	行事開催回数	3	3	2	2	2	2
	成果指標ア	文化祭来場者数	2,357	2,290	2,130	2,073	2,100	2,100
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		2,532	2,560	2,572	2,503	2,558	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		2,532	2,560	2,572	2,503	2,558	
課題等	・各部門別の活動及び文化祭実施等、文化協会の自主的運営への積極的な姿勢が見られ、事業効果が大きい。 ・R4年度から文化協会主催事業について、市が共催から後援になったことに伴い、文化祭開催補助金を増額した。 ・R5年度から、3会場で行っていた文化祭を2会場に集約した。							
令和8年度方針	文化祭来場者はコロナ禍から回復し、各団体の活動も活発に行われている。今後も文化協会の事業を支援し、広報周知等に協力する。 R8年度から、運営補助金と文化祭開催補助金が一本化となった。適正な団体運営となるよう適切な連絡調整を行う。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09040	事業名	文化財保存事業	事業コード	39600	担当課	生涯学習課	
事業概要	・開発に伴う埋蔵文化財の取り扱い調整、発掘調査、整理及び報告書の作成を行う ・市所管の文化財の維持管理 ・ひかた市民センター等で所蔵している資料の保存活用							
経緯等	昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	埋蔵文化財の適正な調査・整理および、資料の計画的なデジタル化と、誰もがアクセス可能なWeb公開システムの構築。		年間の届出及び通知件数。 HPに公開した文化財の件数。			文化財が「眠っている資源」から「地域社会で活用されるコンテンツ」へと転換し、郷土への誇りが向上する。		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	埋蔵文化財発掘の届け出及び通知件数	3	3	2	1	2	2
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	HPに公開した文化財の件数	7	18	45	73	100	130
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		1,007	1,506	2,119	668	850	
	その他(補助金・地方債等)		71	62	72	62	72	
	歳出額(総額)		1,078	1,568	2,191	730	922	
課題等	埋蔵文化財については事業者からの要望増により、庁内協議により確認調査は公費で実施している。整理事業場所の確保が困難。収蔵している資料や指定文化財のデジタル化と公開をすすめているが、財源の確保や長期的な活用に課題がある。							
令和8年度方針	市の文化財保護行政の根幹となる業務であり、引き続き事業を実施していく。ひかた市民センターにある展示室、本庁舎の歴史を学ぶ場などの活用とあわせて、文化財のデジタルアーカイブの取り組みをすすめる。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調
No.	09050	事業名	文化財保存・継承団体への助成		事業コード	39600	担当課	生涯学習課
事業概要	指定文化財の相談、指導、並びに修理、復旧、維持管理の助成（事業費が10万円以上について事業費の2分の1以内を助成〔上限30万円〕）							
経緯等	昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	指定文化財の所有者・保存団体に対する助言・財政的支援。		継承団体が行った伝承活動の実施回数。			市民が文化財に触れる機会が守られ、地域固有の歴史的景観・文化が保全されることで、地域資産としての価値が維持・向上する。		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	文化財保存修復事業件数	3	3	2	0	3	3
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	公開された文化財の割合(公開件数/130件)	100	100	100	100	100	100
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		540	1,840	1,347	200	1,650	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		540	1,840	1,347	200	1,650	
課題等	保存措置が必要なものが目立つが、所有者・管理者の負担が大きい。継承団体の維持が少子高齢化により困難となっている。指定文化財の所有者から補助金の増額を求める要望が多い。							
令和8年度方針	市の文化財保護行政の根幹となる業務であり、引き続き事業を実施していく。 指定文化財の所有者・管理者が適切な維持管理を行うことができるよう、市の助成に加え民間助成の周知をはかる。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09060	事業名	大原幽学関係資料の保護・保存		事業コード	42200	担当課	生涯学習課
事業概要	大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。会計年度任用職員3名（歴史民俗研究員・用務員）の報酬、印刷物の作成費などがある。記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなる。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来場者の対応のため、設備の保守・整備を行う。							
経緯等	大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員をおいた保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・文化財調査、資料整理の実施。 ・広報強化、展示案内ツアーの実施。 ・子ども向けプログラムの企画・実施		・文化財調査件数、資料整理件数。 ・PRチラシ・SNS投稿数、HPの更新数。 ・子ども向けプログラムの開催回数および参加人数。			・重要文化財の価値向上と、歴史的資料の散逸防止による地域の誇りの醸成。 ・地域の子どもたちが郷土史に触れる機会の増加による郷土愛の育成。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	記念館HP更新数	4	3	6	11	15	15
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	大原幽学記念館入館者数（属性別）	3,669	4,005	3,883	3,294	3,800	5,000
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		17,568	15,560	16,655	12,762	14,520	
	その他(補助金・地方債等)		485	3,332	100	0	0	
	歳出額(総額)		18,053	18,892	16,755	12,762	14,520	
課題等	・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究が必要。 ・施設利用者の方から「高齢者の使用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか」との意見がある。							
令和8年度	・収集資料の調査研究を加速させ、国指定重要文化財の追加指定の準備を進める。 ・市内学校と連携した教育普及プログラムの拡充方法を検討し、試行する。 ・入館者数の減少を抑えるために、令和8年度は企画展を1件、新規講座を1件増加し、入館者数の増加に取り組む。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	09070	事業名	大原幽学遺跡史跡公園の充実		事業コード	42300	担当課	生涯学習課
事業概要	国指定史跡44,537㎡を含む総面積60,482.13㎡の公園を管理活用する事業である。恵まれた自然環境と史跡を活用し、文化財の保護と併せ、市民が地域の文化にふれ、また憩いの場となるよう整備する。 維持管理として、臨時職員2名により、清掃、草刈、建物の開け閉めなどを行っている。また、業者委託により、園内の緑地管理、防災設備の保守、水田の工作等を行っている。令和4年から、国庫補助事業として、防災設備工事、斜面保全、排水工事等整備を進めている。							
経緯等	保存団体で所有されていた国指定史跡大原幽学遺跡が、昭和56年に干潟町に寄贈された。町は公園として整備し、平成2年に史跡公園として竣工した。その後30年以上が経過し、消防設備の起動不良、排水不良等による斜面地の崩落の恐れや地盤のぬかるみ等遺跡の保全に支障をきたし、再整備が必要となった。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	・建造物、遺跡の保全、危険木の伐採、緑地・設備の保守管理 ・遺跡見学・観察会		・保全件数、倒木危険除去件数 ・参加者数			・来園者が安心して散策できる環境が整う ・関心がなかった層への認知度が高まる ・郷土愛が醸成される		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア		0	0	0	0	0	0
	活動指標イ	公園整備工事件数	2	3	2	2	2	2
	成果指標ア		0	0	0	0	0	0
	成果指標イ	公園来園者数	2,694	3,175	2,963	2,629	2,700	3,000
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		10,575	10,351	15,190	17,865	15,591	
	その他(補助金・地方債等)		2,560	57,417	87,646	50,824	125,878	
	歳出額(総額)		13,135	67,768	102,836	68,689	141,469	
課題等	・文化財建造物の老朽化、倒木の恐れ ・幽学の認知度が低い							
令和8年度方針	・国県の指導の下、史跡公園整備を進める。 ・幽学に加え、公園(自然)資源も対象にした館主催の遺跡見学・観察会の開催方法を検討し、試行する。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調
No.	10010	事業名	地域子ども教室事業		事業コード	39300	担当課	生涯学習課
事業概要	小学校3年生から6年生までを対象に、平日は、市内15校で万華鏡、キーホルダー等の教室を開催。土日は、公民館等を利用した子ども英会話教室、子ども囲碁教室、ものづくり教室、料理教室を開催する。（教材費は参加者負担） 講座を通して親子のふれあいや地域の方々との交流を深め、学校・家庭・地域で協力し合い、子どもたちの教育環境を充実させる。							
経緯等	地域の大人の協力を得て、学校や公民館等を活用し、子供たちの活動拠点（居場所）を確保し、放課後や週末等における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援する事業として開始した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	各学校、公民館を利用して、色々な教室を開催する。		地域子ども教室講座の開催回数			子どもたち同士の交流を深めるとともに、主体的に取り組むことで社会性や自主性を育む。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	地域子ども教室の開催回数	67	65	39	37	20	20
	活動指標イ	子ども向け講座の開催回数	43	44	39	59	70	70
	成果指標ア	地域子ども教室への参加人数（延べ人数）	1,176	1,039	766	928	542	542
	成果指標イ	子ども向け講座参加人数（延べ人数）	1,670	1,662	1,881	874	2,484	2,484
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		1,916	2,059	2,039	1,591	1,765	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		1,916	2,059	2,039	1,591	1,765	
課題等	少子化や家庭環境の変化、地域の教育力低下等、子どもたちを取り巻く社会的環境の変化が著しいため、学校、家庭・地域が連携を図り、教育環境を充実させる必要がある。 子どもたちが安全に安心して過ごせる子どもたちの居場所づくりや、他校児童や異学年間の交流を通じて、楽しく学びながら豊かな人間性やコミュニケーション能力の育成を望む声がある。							
令和8年度方針	各施設等で行っている色々な教室を見直し、学校・家庭・地域のニーズに合った魅力ある教室になるように検討し、事業を継続する。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	10020	事業名	二十歳のつどい開催事業		事業コード	39500	担当課	生涯学習課
事業概要	対象年度内に20歳を迎える方（市内及び学生等で市外へ転出している方）を対象に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことを目的とした事業。							
経緯等	成年年齢が18歳に引き下がった後も、旧成人式を引き継ぎ、対象年度内に20歳を迎える方に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことを目的として開始した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	二十歳のつどい実行委員会を立ち上げて、式典の企画や運営を行う。		対象年度内に20歳を迎える90%前後の若者が旭市に集う。			20歳という節目に生まれ育った旭市で旧友と再会することで、愛着心が醸成され、将来的にUターンや地域活動への参画を促す種まきとなる。		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	二十歳のつどい実行委員数	22	19	19	27	25	25
	活動指標イ	式典の企画数	10	10	11	10	9	9
	成果指標ア	二十歳のつどい参加率	83	88	82	89	90	90
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		1,006	1,362	1,346	1,328	1,395	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		1,006	1,362	1,346	1,328	1,395	
課題等	少子化の影響から対象者が減少し続けている。 また、中学校3年生時に二十歳のつどいをつなぐ取り組みとして、「自分への案内状」の作成や実行委員の選出をしているが、5年前とは生活状況等が変化するため、現住所との照合が困難になることや、スムーズに委員が選出できないことがある。 さらに、式典内容について、時間の短縮や市外中学校出身者にも配慮した構成を検討する必要がある。							
令和8年度方針	参加者の負担軽減と式典の魅力向上を図るため、式典時間の短縮と参加者目線での企画の立案、事前告知の工夫などを検討するとともに、実行委員会を主体とした事業を継続する。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調
No.	10030	事業名	青少年育成市民会議の推進		事業コード	39740	担当課	生涯学習課
事業概要	地域と行政が協働して意見発表大会などを通じて青少年の健全育成を行う。市は育成市民会議に補助金を交付する。							
経緯等	合併前の1市3町で結成されていた市・町民会議について、合併により新たに「旭市青少年育成市民会議」を結成した。「旭市青少年問題協議会」は地方青少年問題協議会法第1条の規定により設置したが、根拠法令である同法の要件が緩和され、当協議会の役割の機能重複及び形骸化のため令和7年度に廃止した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	≪市民会議≫意見発表大会の開催 ≪問題協議会≫会議及び講演会等の開催		≪市民会議≫意見発表大会の来場人数 ≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数			青少年の現状や抱える課題、目標等を共有することにより、青少年健全育成活動の充実を図ることができる。		
指標			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8(見込)	目標値
	活動指標ア	≪市民会議≫意見発表大会の発表人数	13	13	11	13	13	13
	活動指標イ	≪問題協議会≫会議の回数	1	1	1	0	-	-
	成果指標ア	≪市民会議≫意見発表大会の来場人数	153	173	170	156	200	200
	成果指標イ	≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数	37	28	14	0	-	-
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		268	263	289	253	292	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		268	263	289	253	292	
課題等	青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜徘徊などに加え、パソコンやスマートフォンなどによるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化し、低年齢化の傾向にある。 学校・家庭・地域社会・関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。							
令和8年度方針	・役割や活動内容を踏まえて、青少年の健全育成に関連する業務などの集約化を図る。 ・意見発表大会の来場者数が増加されるよう有効な周知方法を検討し、事後アンケートによりその効果を図る。							

					重点P	-	総合評価	概ね順調
No.	10040	事業名	青少年相談員連絡協議会活動の充実		事業コード	39740	担当課	生涯学習課
事業概要	青少年相談員（千葉県知事委嘱）による青少年健全育成活動。市は連絡協議会への補助金交付を行う。							
経緯等	青少年相談員が青少年問題対策の総合的な企画、調整及び推進を行い、青少年の健全な育成を図ることを目的として、青少年相談員連絡協議会を設置した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	旭市青少年相談員主催事業を開催する。		相談員の各事業への参加			青少年と地域の顔である青少年相談員が事業を通じて交流することにより、青少年の人間形成がなされる。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	≪相談員連絡協議会≫主体行事の回数	7	5	5	5	6	6
	活動指標イ	≪相談員連絡協議会≫協力行事等の回数	5	4	4	3	4	4
	成果指標ア	≪相談員連絡協議会≫相談員の各事業への参加率	21	26	25	25	30	30
	成果指標イ	市主催事業への児童参加者数	216	154	169	138	210	210
費用（千円）	一般財源・基金等市の実質負担額		2,417	411	407	2,366	341	
	その他(補助金・地方債等)		360	355	350	345	360	
	歳出額(総額)		2,777	766	757	2,711	701	
課題等	青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜徘徊などに加え、パソコンやスマートフォンなどによるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化し、低年齢化の傾向にある。 学校・家庭・地域社会・関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。							
令和8年度方針	青少年相談員の負担を鑑みて、現状の事業量を維持しつつ、事業内容を精査し、相談員の参加率向上を図る。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	10050	事業名	子ども会活動の促進		事業コード	39740	担当課	生涯学習課
事業概要	地域における子どもの健全育成を図るため、子ども会活動に対する支援を実施する。 子ども会が行う体験活動や地域交流活動等を支援するとともに、加入促進や情報発信、育成者支援を行うことで、地域における異年齢交流や子どもの社会性・協調性の育成につなげる。 また、主催イベントについては、参加しやすく効果的な事業内容の充実を図る。							
経緯等	少子化や地域コミュニティが希薄化が進む中、子供たちが地域の中で異年齢交流や体験活動を行う機会が減少している。子ども会活動は、地域とつながりを深め、協調性や自主性を育む必要な役割を担っていることから、地域ぐるみで子どもの健全育成を推進するため本事業を実施している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	旭市子ども会育成連絡協議会主催イベント、ジュニア・リーダー初級講座、ジュニアリーダーズクラブ活動、東総子ども会育成連絡協議会事業、バス借上助成事業等の実施。		・単位子ども会の会員数 ・ジュニア・リーダー初級講座受講生 ・バス借上助成事業の助成件数			活動等を通して、社会性や豊かな人間性を養うことができる。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	単位子ども会の会員数	1048	876	744	714	684	650
	活動指標イ	ジュニア・リーダー初級講座受講生	15	43	36	25	37	40
	成果指標ア	旭市連絡主催事業への参加人数	221	153	222	226	250	250
	成果指標イ	ジュニアリーダーズクラブ会員数	8	14	14	26	22	25
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		1,014	1,409	1,287	1,158	1,581	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	0	0	
	歳出額(総額)		1,014	1,409	1,287	1,158	1,581	
課題等	少子化やライフスタイルの変化等により、子ども会加入者数及び活動参加者が減少傾向にある。 また、役員の担い手不足や活動負担の増加により、継続的な運営が困難となっている子ども会も見られる。							
令和8年度方針	少子化や地域コミュニティが希薄化する中、子供たちの健全育成及び地域交流の促進を図るため、子ども会活動への支援を継続する。 また、子どもや保護者のニーズに応じた活動を促進するとともに、加入促進や情報発信の充実に取り組む。 主催イベントについては、事業を集約し、参加しやすく効果的な事業内容の充実を図る。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	10060	事業名	部活動地域クラブ運営事業		事業コード	39750	担当課	生涯学習課
事業概要	学校部活動の維持が困難となる前に、生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保するため、新たに地域クラブを整備する。							
経緯等	国が示す部活動の地域展開等に関するスケジュールでは、令和５年度から令和７年度までを改革推進期間、令和８年度から令和１３年度までを改革実行期間としている。 旭市ではモデル事業として、令和６年度からソフトテニス、令和７年度から陸上競技を地域クラブとして活動している。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	地域クラブの運営及び民間クラブの認定		生徒の地域クラブ参加率			生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむことで、体力・技能の向上とともに人間関係や責任感、連帯感を培われる。		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	運営する地域クラブ数	-	-	-	-	20	20
	活動指標イ	認定した民間クラブ数	-	-	-	-	1	1
	成果指標ア	生徒の地域クラブ参加率	-	-	-	-	60	60
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		-	-	-	4,739	8,117	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	0	3,151	17,868	
	歳出額(総額)		0	0	0	7,890	25,985	
課題等	運営費や指導者への報酬等が必要になるため、公的負担と受益者負担が発生する。 また、指導者の確保や大会参加の在り方、運営体制の構築等、課題も多い。生徒の地域クラブ参加率を高めるための工夫が必要となる。 将来的には平日部活動の地域展開について検討が必要となる。							
令和８年度方針	休日に部活動を実施している種目(運動部及び吹奏楽部)において、令和８年９月から休日部活動の地域展開を実施する。 ただし、受け皿等条件が整わない場合は部活動継続も可とする。							

				重点P	-	総合評価	概ね順調	
No.	20070	事業名	地域学校協働活動の推進		事業コード	39400	担当課	生涯学習課
事業概要	市内小中学校20校と地域が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する活動である。具体的には、地域コーディネーターがつなぎ役として、学校のニーズに対して、地域ボランティアが参画し、読書ボランティア、学校行事、授業等の学校支援活動を行うことで、子どもたちの安全・安心な学習や人間性、社会性の充実に努める。							
経緯等	「地域コーディネーター」がつなぎ役となり、「地域の子どもは地域で育てる」という共通の意識の下、学校、地域、家庭が連携・協働する体制の構築を図る場として地域ボランティアを活用しながら、子どもたちの安全・安心な学習等が行えるように開設した。							
ロジックモデル	活動・実施内容		産出(アウトプット)			成果(アウトカム)		
	市内小中学校において地域学校協働活動を実施する		地域コーディネータを中心に地域ボランティアを活用し、地域学校協働活動を進める			地域ボランティアを活用した教育活動を行うことで、子どもたちの安全・安心な学習や人間性・社会性を育む		
指標			R4	R5	R6	R7	R8(見込)	目標値
	活動指標ア	地域学校協働活動実施学校数	0	0	20	20	20	20
	活動指標イ		0	0	0	0	0	0
	成果指標ア	ボランティアの参加人数	0	0	5,898	5,177	5,500	5,500
	成果指標イ		0	0	0	0	0	0
費用(千円)	一般財源・基金等市の実質負担額		0	0	724	566	944	
	その他(補助金・地方債等)		0	0	965	1,115	1,888	
	歳出額(総額)		0	0	1,689	1,681	2,832	
課題等	学校の抱える課題は、複雑化、多様化し、それらを解決するひとつの手段として、地域学校協働活動を進めているが、地域の方々に地域学校協働活動が周知されていない。							
令和8年度の方針	・地域学校協働活動を通して、子どもたちの安全・安心な学習環境に努めるとともに、子どもと地域ボランティアの人たちとの交流を進める。 ・地域学校協働活動を活用した学校行事・授業等の数を増やしていける環境を整える。 ・関係団体へ「地域学校協働活動」について周知を強化する。							